

森と子どもと馬をつなぐもの

NPO 法人 山の遊び舎はらぺこ（長野県）

<https://harapeko.ww8.jp/>

取組の目的・背景・沿革等

🌿 地域の環境や状況

いわゆる里山なる環境に位置するはらぺこでは、住宅地でありながらも自然豊かな環境がそこかしこにあり、子どもたちは毎日その環境を生かして遊び込んでいる。

🌿 取組の経緯・背景・理念等

「はらぺこ」は2005年、自然の中でもっとのびのびと子どもを育みたいと願った保護者と保育士が出会い始まった。自然との関わりの中で地に足の着いた暮らしを続けていく中で、わずかながら馬との関わりもでき、乗馬や馬搬、そして馬耕へと広がりを見せている。

取組の概要

🌿 取組の内容

子どもたちの遊びやすい環境にするため、園舎周辺の森林を間伐し、その材を製材して板などに加工した後、子どもたちのクラフトや園舎の整備を行う材としている。今回紹介する取組では木を伐採した場所から材をトラックに積むことができる駐車場まで丸太の運搬を馬搬でお願いをし、その様子を園児はもちろん地域の小学生（1年生）にも来園を呼びかけ、一緒に体験できるよう企画した。

🌿 施設や場の特徴、プログラムの特徴

子どもたちは迫力ある木の伐採場面を、表情のある木々が倒れていくのを複雑な気持ちで見ている。暗い斜面に光が差し込む景色と横たわっている丸太を見て、「あの木、かわいそうだね」というつぶやきをのみ込みながら、心を揺らしていた。そんな気持ちを大事にしながら一本一本の木を大切にに使わせてもらおうと大人も心を新たにした。馬との関わりも単に機械の代わりとしてではなく同じ心を持ったものとして身近に感じてもらえるよう、なるべく子どもたちの意識に溶け込めるよう牧場の方とも話をし、毎回臨んでいる。今回は馬搬を始める前に、馬について話をしていただき、人と馬は共に暮らしていた長い歴史があるのだということ伝えていただいた。小学生の中にはこの日初めて馬を見た、という子どもも何人かいた。その後、実際に馬が運ぶ予定の丸太を子どもたちが引っ張ってみてどのくらい



の力が必要なのか体験した。自分たちの力ではなかなか進まなかった丸太を馬に装着すると、初めのうちは馬も調子が取れずうまく進まなかったが、誰ともなく「がんばれ！」と声が掛かり、みんなで「がんばれがんばれ」と応援すると、ドドッと丸太が動き出す場面にみんなが歓声を上げ馬の後を追いかけた。森という場で何かにつながった瞬間だと感じた。

実施体制について

今回、関わっていただいた全ての人が、次の世代、次の社会に対する意識が高い人たちだと感じた。次の世代に何のバトンを渡すのか、考え続けて更に実践していくことが大切だと感じた。

安全性への配慮

牧場の方が現場に下見に来て打合せをし、当日も子どもたちに馬との関わりで気を付けなければならないことをしっかりと伝えていただいた。

地域機関・団体との連携

小学1年生（2クラス）のほか、ご近所の皆さんにも声を掛け見に来ていただいた。「昔はこの辺でもよく馬が働いていたんだ」といったような話が飛び交っていた。

取組による効果

子供・保護者への影響

この後、子どもたちと一緒に馬も食事をしたり、午後は子どもたちと一緒に散歩に行ったりし、一日たっぷり子どもたちと馬と一緒に過ごしました。大量の糞に驚いたり、ブラッシングをさせていただいたり、様々に関わる中で子どもたちの気持ちの中でもどんどん馬との距離が縮まりました。馬にも気持ちがあり、動きたい時もあればそうでない時もあり、それは自分たちと同じなのだというような気付きは、他では得られない体験だと考えられた。

地域社会への影響

毎年のようにさせていただいている企画なので、地域の方々も環境整備やそれに伴う馬搬などに理解を示していただいている。

取組を通じて全体的な所感

数か月後、運び出した木材の加工を製材所へ見学に行くことになった。ここでも、木を愛する人たちが一生懸命はらぺこの丸太を板などにしてくれて、みんなで「ありがとう」を伝えることができた。森からたくさんの工程を共に体験をすることができ、関わってくれた人の顔が思い浮かぶ関係性を築くというのは、木材でも食材でも暮らしを中心とした幼児教育においてとても大切なことだと改めて感じた。